

学童期の外傷について ー対応と予防ー

北海道大学大学院歯学研究科口腔機能学講座

小児・障害者歯科学教室

八若 保孝

外傷はどの年代においても起こりうる事故であり、受傷により大きな変化が生じる。特に口腔の外傷は、小児期においてよく認められる。

口腔の外傷、とくに歯の外傷は、その歯の寿命にかかわるだけでなく、乳歯であればその後継永久歯への影響も留意する必要がある。また、小児期においては咀嚼、発音などの機能的要素および審美などの精神的要素を含めた歯列咬合の成長発育に大きな影響を及ぼす。小児の口腔外傷は、顔面頭部の外傷の一部分の場合が多く、広範な外傷の場合、脳にも影響を及ぼすことがあることを留意しておく必要がある。

小児は、その成長発育過程において、また外傷受傷による精神的な動揺などにより、自分の外傷の状態を詳細にそして適切に表現することが難しい。この状況下で私たちが、いかにしてその状態を正確に把握できるかが重要であり、小児本人ならびに保護者や学校の養護教諭などから十分に状況を得る必要がある。そして外傷の背景を十分に把握した上で、実際の外傷の状態を正確に適切に診査・診断する必要がある。また、本人ならびに保護者の精神的影響を十分考慮した対応が重要で、予後を含めた説明などについても、落ち着いた段階でわかりやすく説明し、理解していただくことが大切で、適切な治療とこの説明と理解は、予後を良好にする両輪となる。

外傷の治療については、材料の進歩が日進月歩であり、固定ならびに再植に関する新しい知見などがこれからも数多く発表されることが予想され、いつも新しい情報に意識を向けておく必要がある。

今回の講演では、歯の外傷を中心に、新しい情報を交えながら、その対応と予防についてまとめる予定である。